

9年間ありがとう

山陰観光列車みすゞ潮彩ラストラン

平成19年7月に下関市と長門市の両市間を結ぶ観光列車として運行がスタートした「みすゞ潮彩」。

運行期間中、約73万人の乗客を乗せ、美しい日本海側の海岸線を走ってきましたが、平成29年1月29日(日)、惜しまれつつ約9年半の運行に幕を閉じました。

日本海の眺めが

満喫できる車両設計

「みすゞ潮彩」の車両は、外装を長門市在住のイラストレーター尾崎眞吾さんが、内装を長門市出身のインテリアデザイナー岡本輝男さんがデザインし、三角や階段型の窓などアールドコ調に統一されました。

車内では指定席のほとんどが海側に向けて設置され、通常より大きくとられた車窓から日本海の眺めを満喫できるよう設計。特に眺めの良い3カ所のビュースポットでは列車を停止させ、美しい日本海の海岸線を楽しむことができたほか、車内

では金子みすゞの紙芝居や乗車記念証の配布などおもてなしのイベントも開催され好評を博していました。

しかし、今年の9月から12月に開催される「幕末維新やまぐちフェスティバル」の開催に合わせ、今年度のラストランセレモニーに向け、新たな観光列車が導入されることから、運行を終了することとなりました。

ラストランセレモニー

運行最終日となる1月29日(日)、JR仙崎駅でラストランセレモニーが開かれ、大西市長やJR関係者、みすゞ少年少女合唱団、市民らが最後となる「みすゞ潮彩」を出迎えました。



▲みすゞ少年少女合唱団の歌声で歓迎

12時34分、下関方面から「みすゞ潮彩」が到着すると、みすゞ少年少女合唱団の合唱で乗客を歓迎。この日は、JR仙崎駅構内で焼き立てちくわの振る舞いやかまぼこの試食、焼き鳥販売などのおもてなしが行われ、乗客は長門市の美味しい幸を堪能していました。そして12時46分、「みすゞ潮彩」は市民らが見守る中、大西市長と佐藤長門市駅長の出発合図で発車し、復路となる下関方面に向かいました。



▲復路へ出発するみすゞ潮彩を見送る



▲車両をバックに記念撮影を楽しむ乗客ら

「みすゞ潮彩」に代わる新たな観光列車は「みすゞ潮彩」を改造して建造され、乗車区間を萩市まで延伸。日本海の絶景を楽しむ座席や沿線の美味、美酒など山口県の魅力を堪能できるサービスやおもてなしが提供される観光列車として、今年の夏頃に運行が予定されています。